



進 隅 廉 字 題

東武東上線と破風山

BN 890 田邊 強

東武東上線（普段は単に東上線と呼んでいる。）の沿線に住んで四十年になる。東上線は池袋駅を起点として都内を通り、埼玉県寄居駅までを結ぶ私鉄路線である。東上線という名前は、当初は東京都と上州（現在の群馬県）を結び計画で名付けられたが、途中の埼玉県で計画が頓挫してしまったようである。実はこの東上線、寄居駅で秩父鉄道と合流しているの、東上線のほかに秩父鉄道沿線の山に登るにもとても都合がよい。コロナ禍で外出もままならないが、たまには山のきれいな空気が吸いたいという思いもあり、5月の平日に、同じく東上線沿線に居を構える同期の山口君と二人で秩父鉄道沿線の破風山という山に登ることにした。

破風山と書いて「はっぷざん」と読む。破れた風の山という何とも荒々しい名前のこの山は、秩父札所めぐりの巡礼道で、埼玉県の

第 63 号

明 治 大 学 体 育 会
ワンダーフォーゲル部
な た め 会 会 報

皆野町と吉田町の境界にある626・5mの初級者向けの山である。ちなみにこの一帯は皆野アルプスと呼ばれていることを地元のホームページで知った。日本にはやたらアルプスと名の付く地名が多いのである。

破風山に登ったその日は朝から快晴で、東上線志木駅で待ち合わせをし、急行小川町行に乗った。埼玉県屈指の観光地で小江戸・川越で有名な川越駅を過ぎ、和紙の里で知られる小川町駅で寄居行の各停電車に乗り換えた。寄居駅で秩父鉄道に乗り換えるのであるがICカードが使えないため山口君が窓口で聞いたところ、一枚千円の日フリー乗車券があることを知った。目的地の皆野駅まで片道550円なので往復1100円のお得である。山口君ナイスである。

秩父鉄道は羽生と三峰口を結び、有名な長瀬溪谷沿いに行く鉄道で、日によってSLが走る人気私鉄路線である。その長瀬駅を過ぎて三つ目の皆野駅で下車をし、そこからバスに乗った。札所前というところで降りると目の前に破風山入口の標識があった。左手に水潜寺という寺があり、その寺の脇を通るように山道が林の中に伸びていた。小さな沢に沿った山道は、思ったよりもきつい直登で汗が噴き出てくる。二人とも日頃の不摂生がた



破風山山頂から見た武甲山とツツジの花

たりアヘアヘしながらも2時間ほどで札立峠にたどり着いた。ここからは尾根道となり、30分も行くと山頂であった。誰もいない山頂は、十人もいるとはみだしそうに狭いが眺望は素晴らしく、武甲山や雲取山などの奥秩父の山や秩父盆地が一望できた。周りにはツツジなどの花が咲いていて写真を撮りまくる。今日は誰も来ないだろうと二人ではしゃいでいると、すぐに年配男女数名のグループが登ってきたので潔く山頂を譲り、温泉を目指して下山することにした。途中の分岐に屋根付きの休憩所があり、そこで、コンビ二のお

握りを食べることにした。先に休んでいた若い女性二人を見ると、ひとりの女性が缶ビールを飲んでいることに気づき、二人でよだれを垂らす。ああ、コンビニでビールも買ってくるんだった。

早くビールが飲みたいという思いだけで下山を急ぐ。1時間も下ると風戸という集落があり、山道が車道と合流する。そこから車道を30分も行くと日帰り温泉「満願の湯」に到着した。肌がツルツルになるという単純硫黄泉の湯が疲れた体に心地よい。露天風呂に口元までどっぷりと湯に浸かり、見上げると木々の間からこぼれ落ちたような青い空が見え、遠くで鳥の鳴き声が聞こえた。おお、いい湯である。

入浴後は休憩室のテーブルで、豆腐サラダと枝豆をツマミに生ビールで乾杯し、さっそく次の山はどこにしようかという話で盛り上がった。日本百名山のような有名な山も良いが身近な低山にもそれなりの魅力があり、温泉付きならばなお最高と思える。ついでに東武東上線もご利用いただければ幸いである。



■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、左記にご連絡願います。

総務部アドレス：soumu@natamekei.org

ファックス：03-55539-4245

小田野 義之(75)

住所：〒343-0021 埼玉県越谷市大林428-14

電話：090-2439-13463

メール：y88godano@docomo.ne.jp

訃報

BN 533 高塚 文雄OBが2019年11月14日にご逝去されました。

BN 589 田中 宏始OBが2020年3月8日にご逝去されました。

BN 281 河西 勇OBが2020年6月9日にご逝去されました。

BN 316 神田 忠OBが2020年8月13日にご逝去されました。

BN 166 田島 敏夫OBが2020年8月26日にご逝去されました。

BN 861 青木 秀尚OBが2021年2月21日にご逝去されました。

BN 412 川崎 喜雄OBが2021年3月2日にご逝去されました。

BN 181 新村 貞男OBが2021年3月13日にご逝去されました。

BN 451 山田 祥二OBが2021年5月2日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

新村先輩を偲んで

BN 299 大内 善一

BN 181の新村貞男先輩が逝去され、先輩を偲んで追悼文を書いてほしいと「なため会」の広報推進部から依頼があり、急ぎ当時の「なため会」の会報や、山行の記録を繙いて見た。古いアルバムを開いてみると偶然に、どこかの小屋で新村さん達と昼食をとっているのが見付かった。

新村さんは、当時現役の合宿によく参加され、一本の長い杖を持ち、その杖をたよりにひよいひよいと飛ぶように早足で走るようにみんなを追いついて行くのだった。

新村さんの奥様トシ様よりいただいた七七日喪明けの挨拶文の「コピーを送っていただき、新村さんの生前の全貌を知ることができた。その中の一部を抜粋して紹介する。

戒名は「貞峰院精溪博通居士」ワンダーフォーゲルに因んだ、「峰」「溪」等の文字が入っているのに感銘しているところである。

当時、南会津の山々は、熊笹の藪山が多く未踏のところが沢山あった。そして交通費がJRより安い、東武野岩線を利用して浅草より会津に入ることが便利であった。

新村さんとは、草津スキー場の近くにOB会の寄付により、今はなくなつたが、明大草津山荘を資材等OB・部員総出で持ち上げ建てたことが懐かしい思い出である。

今でも、南会津の山々の山頂には、当時登つ

た折、記念に置いたプレートが残っていることが、ほかの山岳会の会報に記載されている。見付かった写真には、いづどこか記載されていないので確かことは判らないが、おそらく南会津の田代山の山頂近くの神様を祀っている小さな小屋であったことが、なつかしく思い出される。

新村さん安らかに眠り下さい。

合掌



南会津の某山小屋で昼食をとる、右から新村 OB、吉田 OB、内田 OB と筆者

『創部80周年記念誌より再掲』 戦中・戦後のWV

BN 181 新村 貞男

昨今、いろいろな戦争中の体験記が出て来ております。我が部にも戦争中の経過を記録しておいて良いのではないか。幸か不幸か私は一九四三（昭和十八年）春に入部し一九四八（昭和二十三年）に卒業しており、此の点の記録に適任と思ひ、筆を執らせてもらいました。十五年戦争の末期は、時局遂行の為、合同合併が盛んに流行しまして、大学も合併せよという空気もありました。そんな中で部も寄せ集めまとめられる訳で、我がWV、

このたび夫 貞男 永眠の際はご鄭重なご弔問をいただき誠にありがとうございました 篤く御礼申し上げます

本日 貞峰院精溪博通居士 の七七日表明けに際しまして 御礼にお伺いたすべきところでございますが 誠に略儀ながら書中にて謹んで御礼のご挨拶を申し上げます

夫は子どもの頃から身体が弱く結婚した頃もよく風邪をひき、胃潰瘍にも苦しんでおりましたが 43歳のとき断食療法により体質が改善されおどろほど健康になりました。

唯一の趣味は山登り・沢登りで 日本山岳会 明治大学ワンダーフォーゲル部 京葉山の会の会員としてたくさんの山友に囲まれ楽しく心豊かな人生を送ることができました

夫はまた 2011年3月に起きた福島での原発事故に大変心を痛め 2012年より国会前で毎週金曜日に行われる反原発デモには欠かさず出かけておりました

2019年1月5日 夫は突然脳梗塞で倒れ 声が出ず物も吞み込めないという最悪の状態となりました。5ヶ月におよぶリハビリ病院での訓練のあと自宅療養に入りました。初めはどうなる事かと不安でしたがヘルパーをはじめ マッサージ師 医師 看護師など多くの方々の手厚い介護に支えていただき 子どもや孫たちも私たちを精一杯サポートしてくれました

思い返すと夫が亡くなるまでの2年間 夫と満ち足りた時間を共有できたことは私にとってこの上ない幸せでした。お世話になった皆様ご心配や励ましを頂いた皆様に感謝の気持ちで一杯です。心より御礼申し上げますとともに 今後とも変わらぬ御厚誼を賜りますようお願い申し上げます

供養のしるしに心ばかりの品をお送りいたします。なにとぞご受納賜りたくお願い申し上げます

令和3年4月28日

新村トシ

行けたわけです。ただ戦局が厳しいから交通鉄道（車での山行等あり得ない）も今のEデコ近内しか切符は自由に買えない。（中央線なら高尾まで）バスは木炭車で回数も少なく、急な登り坂は降りて押し上げた。靴も軍靴があれば上々ですが、一般には入手出来ず、私は専ら草履だった。雨具は黄色の油紙。ランブはローソク。でも婆婆に居られる内はいいが、例の昭和十八年十二月の学徒出陣であらましの先輩はいなくなり、部も有名無実となる。負戦近くなるとザックで山里を歩いていると買い出しと思われて巡査に調べられました。駿河台本館は参謀本部に占拠されました。（お陰で戦后陸測の五万図が散乱していて入

山岳、ボーイスカウトが合併して行軍山岳部とされました。中国大陸での戦争では、機械化はまだまだで。馬は、おえらいさんのもの、庶民の兵は大陸を歩くのが原則。だから歩行力を強める事が戦力増強となり「歩け歩け運動」が奨励されました。山岳戦も想定され、時局にあつたクラブでした。そんな中で私達も山に

手出来たのは幸)この校舎はギリギリの処で焼け残ったので、我が部のあった部屋(本館西側端)四階からは、神田神保町方面の焼け野原が一望できた。そして運よく戦場から生き延びて復員して来た先輩(昭和十六年入学、昭和二十一年卒を主体とした方々で卒業しても就職難で苦労した)がボチボチ集まって来た。行軍山岳部は自然消滅。「WV」は独のヒットラーの後裔とGHQから睨まれそなので、健歩部と変名。教室の黒板の端に新人募集をした。(掲示板はポスターもなく一番手頃な方法)喰うものがない時だから、容易には集まらず、部の再建は容易ではなかった。でも復員の先輩等と共に二十人位になった。昭和二十一年になって「体育部は体育館の地下の長屋に集まれ」という事で、山岳部の下、音楽部のあった長屋の端の狭いところに転居した。今までは体育会に所属していなかったのに、此処で初めて体育会に所属する訳である。所が予算審議で山岳部と合併しろと云われ、違うんだと力説(山岳は山を征服、ヒマラヤを目指す。我々は自然を愛し、融けこむんだと)して何とか危機を乗り切った。

生活物資が何もない時代だったが、山への熱情はそれだけ深く、夏休み等長期山行には、買い出しの日を一両日位入れてから入山した。当時、山岳部の主将助川さんの弟さんが烏帽子岳登山口の濁小屋で(現在は高瀬湖の底)ザックの荷を狙われて殺害された事



創部80周年記念式典で挨拶する新村 OB

件があった。昭和二年に部室が地下長屋の中央部一階の広い部屋に転居出来た。空手部の居た処でこの引越は恐ろしかった。なぜって、剣道も柔道もSTOPされていて、空手がGHQから許されて当時一番権力を持っていた。こわいお兄さんが揃っていた。(空けわたしを拒まれた)WVは渡り鳥だから定着合宿は向かないと云って専ら放浪の旅を主体とした。

昭和二四年になって大橋OBの主導で女子部員が入る様になった。(深川の阿部アキBN二二) 神保町の田中治子BN二二) 慶応、立教のWVとの連合やら、GHQからの

呼び出し等がある。(こころいりから城島紀夫さんのWVの歴史に明細あり)

学制改革での新制大学で、体育が必修科目となり、体育部に居れば実技・正課が免除されるので我が部は容易なので、登山ブームも加わり爾後部員数は激増する事になった。

新村先輩

BN 751 諏訪本 充弘

3月31日日暮里駅で大賀会長と待ち合わせで京成線市川真間駅で下車して新村先輩のお宅に弔問に伺いました。

新村先輩といえどもニコニコ温厚でやさしい思い出しがありません。

新村さんとの思い出は印象に残っているのは3回です。

一回目は針生山荘の15周年で、(10周年は事故でできなかった。)七ヶ岳ワンデリングが企画され、先発で小屋に入っていた私と大村、長谷(旧姓)と新村先輩と4人で先行して山頂で本隊と合流しました。下山は先輩は本隊と一緒に高杖スキー場に下りましたが、後で聞くところによると竹竿を駆使して颯爽と下山したとのことでした。

二回目はソラク山に行った時です。新村さんは一日早く出発なされ、独自にガイドを雇ってソラク山を下りた辺りで合流しましたが、新村さんが雇ったガイドの家に引き古き良き韓国の家を見せてもらいました。

帰国前日、校友会韓国支部の役員の方と懇親会をしたのですが、冒頭の挨拶をOB会長だった新村さんが行うことになり、バスの中で一生懸命韓国語での挨拶を暗記していたのが印象に残っています。韓国の同窓会の方々はみんな偉く個人ではとても会えない方々ばかりで、企画した鈴木正彦OBの努力にも頭が下がりました。新村さんの挨拶は何をしゃべったのかわかりませんが、かなり受けていたのを覚えています。

三回目は水沢山のワンデリングです。本隊と一緒に無理だから諏訪本付き合えといわれ、松本樓の松本先輩に社長自ら水沢山の後ろ側に送っていただき帰りにはなんと迎えに来てもいただきました。後ろ側からは登りはほとんど楽しく山頂に着くことができました。

その時の本隊はベースがでたらめだと、コースリーダーは今でも言われているようです。

新村先輩の弔問に行った際四男の方が、独協高校で山岳部の顧問をしており、卒業生が一人明治に受かったたので、ワンゲルに入ると思いますのでよろしくと言われ、名前を聞いて学生に尋ねたら、新歓ハイクの初日は天気が悪く参加者も少なかったけど、その新入生は雨中出てきてやる気満々だと聞きました。地下でシャイな新村さんが、(諏訪本、ほんのお礼だ)とおっしゃっているような気がしました。

二百名山完登を目指して

BN 877 山田 哲

老体に鞭打って日本二百名山完登を目指して登山を続けています(現在ちょうど二百座達成)が、昨年からコロナ禍の影響もあり登山のペースは落ちる一方です。今年も春からの県を跨いで移動制限のため目標登山ができず、当初目標にしていた70歳完登も危うくなりつつあります。残り100座を達成するために体力強化、遭難や事故防止のための危機管理対応を継続し、何としても目標を達成したいと思っています。以下、近況を報告させていただきます。

◆卒業後の山行

学生時代はパーティで行動することを常としたが、卒業時にネパールのクーンプ山群にあるエベレストの展望地「カラパタール」にソロトレッキングに行ってから、単独が寂しいという観念が無くなり、これ以降は単独山行が常となった。最初の赴任地が交通の便が良い名古屋ということもあり、週末や夏季休暇時等には北・中央・南アルプス、八ヶ岳、鈴鹿山脈、白山等に足を運んでいた。

30代半ばに、椎間板ヘルニアのため約1ヶ月間歩くこともできない状況となった。痛みが取れてから水泳とジョギングを始め、当時90キロあった体重を約1年で69キロまで減量した。ジョギングを始めてちょうど3年後にはフルマラソンの大会にも出場し完走し

た。これ以降、今日まで30年間休まずとランニングを継続している。ヘルニア後、体力が回復すると山に行きたくなり、子供たちが幼稚園や小学校低学年になってからは、夏の家族登山は恒例行事となった。それまでに自分が登ったことがある仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳、奥秩父等にテント泊で毎年出かけていた。テントやシュラフ等を背負うのはもちろん自分の役割。学生時代に使ったキスリングがあればどんなに背負い易かったろうかと、処分してしまったことを随分後悔した。

◆日本百名山完登を意識して

自分が40歳中盤になった頃、世間では深田久弥の『日本百名山』が何かと話題になり、山岳雑誌やテレビ等で随分と取り上げられた。ある時自分の山行歴を調べたところ、100座のうち60座ほど登っていた。このため、百名山完登を目標に近場の未踏座から攻め始めた。サラリーマンであるため週末日帰りが中心となり、遠征範囲も自ずと限られるようになる。遠方は夏休み等の長期間休(とは言ってもせいぜい7日程)を取れる時に行くようにした。55歳の役職定年を機に、夏休みをはじめ長期休暇が取れ易い大学の事業会社に出向・転籍した。これを契機に、北海道(まだピークを踏んでいなかった利尻岳、トムラウシ山、幌尻岳、斜里岳)や九州(宮之浦岳、開門岳、霧島山)等を登り、少しずつ消化して行っただ。この時期から妻も同行するようになり、小生に遅れずに登れるようになってい

た。ある年の6月初旬に焼岳に登ったが、青空を背景に新緑の山肌に残雪を残して聳える笠ヶ岳の秀麗な山容に感嘆し、この時に百座目は笠ヶ岳にしようとした。百名山達成者には、近くの山小屋で証明書を発行してくれる光岳、最難関と言われる幌尻岳を百座目にする人もいたようだ。残った3座を踏破すべく、黒部五郎岳、水晶岳、そして2016年8月10日に100座目の笠ヶ岳を踏破し、日本百名山完登は終了した。

(行動記録…2016年8/6 新穂高温泉 8:15—鏡平—双六小屋14:12、8/7 双六小屋5:19—三俣蓮華岳—黒部五郎岳10:18—三俣蓮華岳—三俣山荘14:15、8/9 三俣山荘5:26—黒部川源流—水晶小屋—水晶岳8:10—鷲羽岳—三俣山荘—三俣蓮華岳—双六岳—双六小屋14:00、8/10 双六小屋4:47—秩父平7:19—笠ヶ岳9:44—杓子平12:27—笠新道登山口14:31—新穂高温泉口15:30)。

年齢はちょうど60歳のときであった。完登時の感想は達成感5割、ノルマからの解放感5割というのが正直な気持ちであった。この3座登山にも妻が同行した。妻は元来全くの運動音痴であり、小生が地方のマラソン大会に出場する際に家族を連れて行くことが多々あったため、大会の雰囲気を感じられて自分から走るようになった。今では自分と同じランナーズクラブに所属し、毎日曜日15km走っている。



◆日本三百名山完登を目指して

百名山完登後は目標達成のため一時気が抜けた。ところが、NHKBSの田中陽気「グレイトトラバース日本二百名山一筆書き」の影響もあり、自分もやってみるかという2016年秋から挑戦を始めた。当初は二百名山のみに絞っていたが、すぐ近くに三百名山があることが解ると、効率性を優先して、二百と三百の両方を「地域毎」にアプローチする方法に変えた。近場から登っていくとアプローチまでの距離が段々と長くなり、どうしても

行きと帰りで2日を要してしまう。このため夏休みを中心にエリア毎に攻めていく方法にした。昨年の夏は北東北の9座に登ったが、今年は南東北の9座の登山を予定している。東北の山の最適期は、残雪が残り高山植物が一緒に花開く6月初旬と紅葉が素晴らしい10月中旬である。しかし仕事の関係でこの時期の登山は厳しい。仕事を完全にタイアした後、に名山を登り返そうと考えている。

◆男鹿岳でのMWVプレートとの遭遇

紅葉時の2019年10月31日に妻と三百名山の一つである男鹿岳を登山した。男鹿岳は当部の正部員養成のコースにもなるが、自分たちの代ではコースに入らなかった。男鹿岳へのルートは、一般的には、2つのルートがある。一つは、会津田島町から水無川沿いに遡行して男鹿峠(大川峠)に至り、ここから北尾根をアプローチする残雪期のルート、もう一つは板室温泉の先の深山園地から大佐飛山の北側を走る栃木県道266号中塩原板室那須線(我が部では通称自衛隊道路*)を5:54時間ロード歩きし、そこからブッシュ気味の稜線を辿ってピークに達する無雪期のルートである。自分は秋であったため景色が良い後者を選択した。頂上について写真を撮っている際に、山名標識を掲げる木の根元を見ると青いブリキ版があり、何気なく拾い上げるとなんと「MWVプレート」ではないか!しかも平成11年度合宿時のもので、ちょうど20年前のプレートである。錆びなどの腐



食はなく、昨日にでも設置されたような鮮やかなM字プレートである。現役部員がMWWの伝統とその精神をしっかりと引き継いでくれていることに感激し、思わず快哉を叫んだ。男鹿岳は冬には3mの積雪があり、1年のうち半分は雪に埋もれている。このため、長い月日が経過しても雪が腐食を防いでいたと思われる。

(行動記録・深山園地6:16―稜線入山口9:46―男鹿岳10:32―深山園地14:35)

*栃木県道266号中塩原板室那須線(我が部では通称「自衛隊道路」)

当初は観光有料道路(那須塩原市と那須町間を結ぶ総延長65kmの塩那道路、塩那スカイライン)として構想された。地形が急峻のため民間業者では機材搬入が困難なため、昭和44から栃木県から委託を受けた陸上自衛隊104建設大隊が訓練の一環として工事に当たり、延べ74,000人の自

衛隊員が参加した。オイルショックやその後のブル崩壊により山岳区間の整備計画が凍結し、その後山岳区間の利用廃止が決定した。現在は廃道となる。

◆遭難・道迷い防止

高齢者を中心とする山の遭難事故が年々増加している。自分も高齢者の一人であることを自覚している。自分が登った山で遭難したニュースを聞くのは、いたたまれない気持ちになる。遭難事故の主な原因は、滑落・転倒、道迷いや体力不足からくる疲労等によるものである。今年(2021年)の5月連休に南アの笹が岳(二百、標高2,629m、累計登行差2,300m)の手前の布引山付近で、自分よりも二回り若い41歳の男性登山者が行方不明となり、一週間後に遺体で発見された。滑落死した模様である。自分もちょうど3年前の2018年6月2日に笹が岳に単独登山した。前半の飛ばしすぎと体力不足が原因で疲労困憊となり、手前にある布引山の直前からモモが痙攣して全く力が入らなくなった。苦痛で足を引きずるような歩きとなり、10m歩いては5分休憩するという有様である。ここで引き返したら、次に登るときには体力が一段と落ちていて、二度とこの山には登ることはできなくなる。それ

どころか、三百名山完登の目標は今日で終わると思い、諦めずに踏ん張った。笹が岳手前の登りでは更に重篤化し、最後は四つん這いで辿り着いた苦い経験がある。

(行動記録・山梨県早川町の老平4:00―松横手山7:41―布引山9:25―笹が岳10:26―11:20―布引山12:09―松横手山13:01―老平15:32)

30歳代半ばから今日まで約30年間ランニングを継続し、コロナ禍前まではトレラン大会にも参加しているが、これほどの苦しい経験は初めてであった。改めて日頃のトレーニングの重要さを思い知らされた。この苦い経験以降は、土曜日は早朝20キロ、日曜も地元ランナーズクラブの朝練で15キロを走ることを日課としている。年を重ねる毎に年々登山がきつくなるが、「山で楽をするために里で苦勞する」の精神で頑張っている。また、登山コースの事前調査(ヤマレコによる標準CTや複数人のCT)、危険回避装備(ツェルト、遠距離ホイッスル、米国沿岸警備隊用、熊避けスプレー、大型クマ避け鈴、ヤク用の鐘)の携行により、登山リスクの極小化に努めている。もちろん山岳遭難保険にも加入している。東北や四国あたりまではマイカーでの夫婦遠征であるが、道中の交通トラブルを回避することも常に念頭に置いている。

◆ワンダーフォーゲルの精神について

入部時にいただいた『ワンデルング手帳』を今でも大切に手元に保管している(「キャ

「ソングの歌」や「登山講座―初心者用」も）。この手帳のP5に「部綱領」が掲載されているが、次のとおりである。

- ・我等の国土を遍歴して 美しき自然に親しまん
- ・日本の地理と民族に触れて 祖国愛を高揚せん
- ・友愛と協同によって 力強く結び合はん
- ・純朴に剛健に スポーツ精神を発揮せん

現役時代に先輩から暗唱するように命じられて覚えはしたものの、余り実感が湧かなかった。今一度改めて読み直してみると、まさにワンダーフォーゲルの精神が凝縮された素晴らしい言葉であると感じる。入部して山を知り、素晴らしい先輩・同期の仲間・先輩に巡り合い、充実した学生生活を過ごすことができた。卒業後も山登りを続けることができていることを改めて皆様に感謝したい。最後に、今年2月に1年先輩の青木秀尚さんが病気のために急逝された。自分が3年時にSLとして大変お世話になった方であるが、いつも朗らかで笑顔を絶やさずことが無く、大変面倒見の良い心優しい先輩であった。心からご冥福をお祈りする。(合掌)。

〈幹事会報告〉

■2020年度卒業生送別会& なため会歓迎会開催中止について

2月27日開催予定の歓送迎会につきましては、昨年同様新型コロナウイルスの感染防止対策のため、中止といたしました。

■運営委員会ならびに2021年度なため 会幹事会・会員総会開催について

運営委員会につきましては、昨年に引き続きメールによる意見交換とWebによるリモート会議を毎月行っています。また、幹事会・会員総会開催につきましてもリモート開催とし、昨年同様書面での決議を行っています。

幹事会の書面決議(参加69名)の結果、下記の7議案につきましては、いずれも可決されましたのでご報告いたします。

- 第一号議案 2020年度事業報告
- 第二号議案 2020年度決算報告
- 第三号議案 2020年度監査報告
- 第四号議案 2021年度組織変更案
- 第五号議案 2021年事業計画案
- 第六号議案 2021年度予算案
- 第七号議案 会員加入承認の件

斎藤弘之氏(昭和39年度商学部卒)
の会員への推薦について

※決議内容は14頁以降に記載しています。

〈現役活動報告〉

監督 諏訪本 充弘

大学のサークル活動は、現在体育会のみ指導者の同行、監視のもとに認められています。5月の針生山荘の整備に学生の同行が認められ、その結果を踏まえ、密にならないこと、感染対策をしっかりとすることなどを条件に、新人養成ワンデルングを班毎に申請しました。なお、部員数は現在60名、15名編成の4班で活動しています。

期間を2泊3日にすると両山荘は遠いため、山梨県の道志村にある自宅を起点にして、大室山を中心にワンデルングを行い、途中テント講習や気象指導も行いました。日程は以下の通りです。

3班	6月25～27日	1班	7月2～4日
2班	8月1～3日	4班	8月5～7日

※7月中旬から下旬は前期試験のため除外
※3、4班は男女混成

現在までに2班が終えています。2年生にしても初めての大型ザックでのワンデルングとなり、フランクの大きさを実感しています。元の部の状態に戻るまでにはかなり時間がかかるというのが正直な気持ちです。

最後に学生がテント泊をしたのが2019年11月の秋季合宿。2020年は年明けから活動できず、秋口になって日帰り山行。2021年もこれまで活動認められず、ザックを担いでの山行は実に1年8か月ぶりでした。したがって昨年度入学生も初のザックとなりました。

次頁より3班の1・2年生による感想を掲載します。コロナ禍における学生生活の一端も垣間見ることができそうですので、ご笑覧ください。

2021年度 3班新人 養成合宿

2年 八木 瑛子

日帰り山行は何度が経験していたものの、合宿という形で活動に参加したことはなかった。緊張と楽しみが混ざった気持ちで今回の合宿に臨んだ。

私は2日目から本格的に山行に参加したが、登りでも体力を消耗した。頂上に到着して下山する時は比較的余裕を持てたように思う。3日目は初めてザックを背負った。荷物が普段より重かったこともあり、2日目より登りが多々あったが無事に目的地まで到着することができた。

今回の合宿では、山行だけでなくテントの張り方や釜を使った米の炊き方を学ぶことができたのも良い経験だったと思う。また自分の体力のなさを痛感した合宿でもあったので、次に登る時までにも少しでも改善できるよう努力したいと思う。

2年 恩田 尚輝

今回のこの新人養成合宿は初めてワンダーフォーゲル部として泊まりかつテントなどの装備を含めた大型のザックで山行するといった、やりがいと達成感が格別な味わえるものだったと思いました。また1日目から3日目にかけて本格的な雨が降ることなく、カンカン照りになる事もなく程よい気候でどこどこで景色を楽しめたのが幸いでした。登山はもちろんなこと監督邸において金で炊いたご飯や温かい食事を楽しみ、都会では味わえないような古き良き日本の風情なども味わうことができたアウトドア活動の楽しさを再実感しました。

1日目の監督邸を目指す行程では途中に蟻地獄のような足を取られる傾斜が多くあり体力を消耗し、また久しぶりの山行のせいか序盤からペースを上げすぎてしまい2日目に疲労をためてしまふ要因となっていました。日没して数十分後に監督邸に到着しましたが途中参加の班員と温かい食事が待っていたことの安心感が記憶に残っています。2日目は大室山を目指す行程で前日の疲労が脚部に残っているのを感じました。この山域にはヒルが多く多くの班員がヒルに悩まされていました。自分はスパッツを履いていたのでヒルにあまり噛まれるということはなかったのですが、ふと自分の足に目を向けてみるとスパッツにマダニが一匹付着していて肝を冷やしたのが印象に残っています。長スポンはもちろんなこと長袖や首の部分をタオルなどで覆う、虫よけスプレーなどの重要さを改めて感じました。3日目は赤鞍ヶ岳を経由して無生野バス停を目指して下山する行程ですが、監督・コーチの方が大栗まで送ってくださり大幅にタイムを短縮できました。途中で地図にない道を行くのですがYMAPなどのアプリに頼りきるのではなく読図能力の重要性を認識しました。無生野バス停に無事到着し腰を下ろした際の達成感は格別でした。

三日間を振り返ってみてあっという間でしたがオンライン授業で鈍った身体を目覚めさせたり様々な経験ができたりと充実感がありました。大きなケガもなく無事に全行程を終えることができたので良かったと思います。今回の合宿を経て、トレーニングとして課されている毎日5000歩や自宅から和泉キャンパスまでの片道約10kmの自転車通学では負荷が足りていないと思ったのでランニングや心拍計とインターバルを用いた高負荷な有酸素運動で心肺機能と持久力を高めていきたいと思いました。また下山の際に親指を曲げてしまふクセがあるのか毎回少し痛めてしまふのでそのクセを直したいと思いました。夏合宿などの次の合宿のために準備を万全にしたいと思います。またサポートしてくださった監督をはじめコーチの皆様に感謝の意を表します。

2年 池田 優月

今回の新人養成合宿は、私にとってワンダーフォーゲル部に入部してから初めての合宿であった。3日間の行程のうち1日目は、履修科目の関係で夕食調理からの参加となっていました。どの日程も非常に思い出深く、その感想を以下に述べます。

1日目は、諏訪部コーチが監督邸まで送って下さったのと同時に、山行を終えた本隊が監督邸に到着した。どの班員の顔にも疲労の色が見え、ヒルによる傷を負っている姿をただ見ていることしかできない無念さとの光景は、今後忘れることは無いと思う。そしてこの時、たとえ微力であっても山行の中で先輩や後輩の助けに少しでもなりたいと心から感じた。

2日目は、大室山山頂を目指した。この山行で、2年生は食料係として昼食を忘れるという大失態を犯してしまつた。その結果、昼食を取りに戻って下さった先輩の身体に大きく負担をかけてしまふこととなった。過ちを力バリーして下さった先輩に対して本当に申し訳なく、悔やんでも悔やみきれない。このことから、山行において与えられ





た役割を果たすことがどれだけ重要で、果たさなかった場合班に対してどれほどの影響をもたらしてしまうのか、身をもって実感した。

三日目は、赤鞍ヶ岳山頂を目指した。この日は、昨日朝ご飯の完成が遅れ出発まで時間があったという反省から、目覚めてすぐに火おこしと炊飯に取り掛かった。結果余裕を持って朝食をとることが出来、非常に気持ちのよい朝を迎えることが出来た。山行では、二日目はサブザックで登ったため初めて大きなザックを背負った出発であった。入山前に登山口を見ている

時は緊張と不安で胸が潰れる思いであったが、いざ登山を始めるといつもより重い歩を一步一步噛みしめながら登ることが出来、山頂までの道のりがこんなにも充実しているのだと初めて分かった気がした。下山してバス停についた時には、筋肉痛で歩くのすら痛く感じるのにも関わらず、まだ帰らずに登山を楽しんでいたという思いが湧いていた。

今回の山行では、先輩方から本当に多くのことを聞いてそして見て学んだ。また同級生との共同作業や後輩との交流を通じて、この明治大学のワンダーフォーゲル部に入部して本当によかったと改めて感じている。さらに、頂上だけではなく登りや下りの中にある登山の楽しみを、まだまだ未熟ではあるが見つけることが出来たように思う。今回の合宿を通じて学んだことをこれからの活動の中で活かしさらに成長していけるように、今後も努力をしていきたい。

1年 古谷 望

今回の合宿は、ワンダーフォーゲル部に入部してから初めての活動であり、私にとって人生で初めての山登りである。

1日目は、神野から長尾を超えて監督邸に行くコースであった。慣れない山靴を履いて、重いザックを背負って歩くのは慣れないながらもワクワクした。天気も梅雨の時期ではあるが、曇りで汗ばむ気温だった。

しかし、山道に入ってから数分後に両足ともかかとに靴擦れをおこしてしまった。これはおそらく足の甲の靴紐をしっかりと締めきれていなかったが原因で、足が靴の中で動いてしまったのだと思う。初っ端から怪我をして、その後の登りはとてもしんどかった。包丁でかかとを叩かれているような痛みで、また自粛期間で運動不足になった自分の身体は重くてすぐに息が切れてしまった。それに比べ、同期はスイスイと進んで登っていったので正直「自分には山を登る才能がないかもしれない」と思ってしまった。だが、ポジティブシンキングで「山登りに才能なんてない!!!」と自分に言い聞かせた。

登りは痛みを耐えて、数mおきに止まりながらも登りきることができた。だがこれ以上にしんどかったのが下りである。下り方が下手で数えきれないくらい滑った。どんどん下っていくうちに滑るどころか転落もよくした。全身泥まみれになったし、転落してザックが体の上に乗って自分の力で起き上がれなくなったりときは怖かった。山での転落死についてのニュースがふと思い浮かんで、「転落死はこうやって死ぬのかもしれない。」と大袈裟だと思った。道を外れて雰囲気ガピリガピリしてきたときは少し不安だった。正規ルートに戻するため、足の痛みも感じず必死に崖を這い上がった。その後、無事監督邸に到着したときはとても安心した。

そして2、3日目が靴擦れで待機になったことはとても悔しかった。だが、初日の間に重たい荷物を代わりに持ってくださったり、アドバイスをしてくださった先輩方がとても優しく、同期も声をかけてくれたりしてとても居心地が良かったので、またこのメンバーと次は最初から最後まで山に登りたいと思った。

今回の反省点は大きく分けて2つある。1つめが、山に登る前に基本的なことを調べたりして、準備をしていなかったことだ。私は普通の靴でも靴擦れしやすいので、予め登山靴を何回か履いて慣らすべきだった。

2つめが、登山に十分な体力がなかったことだ。自粛期間に筋トレやジョギングなどは週に数回行っていたが、まだまだ足りないということが今回の合宿で分かったのだ。これからも継続して次の合宿に万全な状態で臨みたいと思う。

以上、今回の合宿で経験したことは、私が2、3年後、(もし)山登りが得意になったときにはできないと思うので、良い経験をしたと思って次に生かしたい。



2年
佐藤 海晴

今回の新人養成合宿は、今年の2年生が明治大学に入学し、かつワンダーフォーゲル部に入部してから初めての宿泊を伴う山行だった。これまでも日帰りで何度か登っていたが、渡り鳥を意味するワンダーフォーゲル部の活動としては密度が薄いように感じていたため、本合宿でようやく本格的な活動が再開したと思うことができた。私は1日目に授業があり夜からの参加となったのだが、聞いた話だと初日の山行は大変苦労したようで、日没後監督邸に到着した部員は皆疲弊し切っていた。ヤマビルによる被害も大きく、足からの出血がある人もいた。私は川にいるチスイビルしか見たことがなかったのだが、血を吸って丸々と太ったヤマビルの姿は身の毛もよだつほどの気持ち悪さだった。これからは、ヒル対策用の道具や薬品を必ず携帯しようと思っただけで済んだ。急登が続き、落ち着いて休める場所はかなり限られていたが、アップダウンがほぼ無く、登りっぱなしだったのがせめてもの救いだった。そちらの方が疲れる。

2日目、この日はアタックザックを持ち大室山へ向かった。急登が続き、落ち着いて休める場所はかなり限られていたが、アップダウンがほぼ無く、登りっぱなしだったのがせめてもの救いだった。そちらの方が疲れる。終盤は傾斜が緩やかだったが、自分の腰の高さほどの草が生い茂っており、それらをかき分けながらおおよそ道とは呼べぬようなところを進んでいった。そして到着した山頂は……まあ聞いてはいたが、見事なまでに展望のいい、地味な場所だ。大室山と言えば、静岡県伊東市にも同じ名前前の山があるが、その山頂にある充実した設備や、そこから見える絶景とは似ても似つかない、寂しい場所だった。しかし、それを補って余りあるほどの満足感を私は得た。それが、私が合宿で初めて登った山だったからなのか、仲間と楽しく登れたからなのかは分からないが、きっと1人で登っても得られないものであることは分かった。

3日目、朝食後に荷物をまとめ、監督邸を出発した。計画ではしばらく国道を歩き登山道に入る予定だったが、当日林道までは監督やコーチが車で送ってくれた。これには本当に救われた。舗装された硬い道の上を登山靴を履いて歩くのは、柔らかな地面の登山道と比べて骨が折れる。体力の温存とともに時間も短縮でき、一石二鳥だった。そして、この日の山行は何分下りが大変だった。滑りやすい地面に急勾配、障害物となる木の枝などが続き、この区間でもかなり体力を消耗した。前半の上りにも急登はあったが、それほど苦にはならなかった。幼少の頃から私は何故か上りの方が得意なのである。下りの技術も更に磨かなければならないと感じた。

こうして3日間の行程を終えたわけだが、炊事のことや三角点のことなど、ここには書ききれないこともたくさんある。それらも含めて、本合宿はとても有意義で楽しいものだったと思う。そして、今回の合宿全体を通して感じたのは、読図能力の必要性だ。自然学校に通っており、地形図の読み方やコンパスの使い方は一通り知ってはいるものの、やはりまだ経験不足が否めず、地形図から風景を想像する能力に欠けているところがある。それでは、登山道が荒廃しているときや濃霧のときなど、非常に時に適切な行動が出来なくなる。今日では、様々な機関で読図講習が行われているので、それらに積極的に参加するなどして、これからの合宿に役立てたいと思った。



食事当番



デント講習

1年
豆田 慎太郎

今回はワンダーフォーゲル部に入部して初めての合宿だった。自分は経験者でないのだから大きなザックを背負って連日登山するのは初めての経験だった。

今回は1日目は監督邸を目指して移動し、2日目は大室山に登り、3日目は赤坂ヶ岳を通って無生野のバス停まで移動した。最初はザックの重さに衝撃を受けたが、先輩方が背負い方や歩き方について教えてくださったため徐々に慣れることが出来た。1日目は途中でトラブルがあったもののそのおかげで地形図を正確に読解することの重要さとトラブルに際した対応について学ぶことが出来たので良かった。2日目はザックを担いだため1日目よりは身体的な疲労は少なかったがまだ3日目もあるということからの精神的負担をかなり感じた。3日目は最終日であるということと山に少しだけ慣れてきたことから落ち着いて山行を楽しめたと思う。今回は天気が曇りだったことからあまり良い景色を楽しむことが出来た。今回の山行ではヒルが非常に多く出現したことも印象深かった。虫よけスプレーは準備していたがあまり効果がなく、一度噛まれてしまった。登山用のレググカバーを着用して対策している先輩もいたので準備不足を実感した。幸いにも今回はそれほど雨に降られることがなかったのでザックが重くなったり、活発化したヒルに遭遇することがなかった。ヒルはこの3日で慣れたものもの出来れば遭遇しなくなかったのが本当に天気に助けられた。

今回の反省点は少し先輩に頼りすぎたことだ。僕は山行については初心者なため地形図やコンパスの使い方もほとんど知らなかったこともあり、序盤はずっと先輩に頼りきりだった。しかしコロナの影響で班で山行する機会がこれからあまりないことから今回の合宿でももっと積極的に使い方を教わるべきであったと感じている。部員となった以上は先輩に助けられるだけでなく先輩を支えられるように次回以降の合宿は頑張りたい。

1年
原田 美羽

今回初めて合宿
に行き、先輩方や
同輩の優しさを実
感した。実際に会

うのは初めての方がほとんどで、不安でいっぱいだった。ワンダーフォーゲル部は、昨年サークルに所属せず、コミュニティがなく不安になり、正直、今年焦って探した候補の一つだった。同輩とは学年も違うし、受け入れてもらえるか心配だった。しかし、沢山話しかけてくれて、私自身ももっと仲良くなりたいと思えた。これから、私は3年間ですが、よろしくお願ひします。隊との間隔が開いてしまった後のレストの際に、先輩方が沢山声をかけてくださり、前に進むことが出来た。私も、そんな先輩方のようになりたいと心から思った。

個人的には、私以外に6人も女性と一緒に山行を行っているということがとても嬉しかった。高校では、先輩には女性がいなかった。同輩や後輩には女性がいなかった。高校三年生の合宿では、女子は1人だった。女性がいるということが、たったそれだけのことなのかもしれないが、とても嬉しく、とても心強かった。

3班の班員の皆様には、ペースの面などで迷惑をかけてしまった。今回私は2日目の山行からの参加であったのにも関わらず、上りでペースを合わせることが出来ず、前と間隔が出来てしまった。今後、隊の間隔が開いてしまうことがないよう、ペースを合わせられるよう、トレーニングをして体力をつけたい。

今回の合宿では、受け身にならず、自主的に動き、隊の一員としての自覚を持ち、安全に楽しみながら山行を行いたい。

1年
成林 花

今回の合宿は人生初の本格的な山登りであった。合宿初日、観光用の登山道しか登ったことがなかった私にとっては、道なき道を進む経験は記憶上初めてであり、とても刺激的だった。重い荷物を持ち、身体を自由に扱えない中、急斜面を登るのは予想以上にきつく、辛さを感じる事も多々あった。しかし、登り切った後の達成感はその以上のものだった。初日以降は登山時のきつさやスリル感が癖になってしまったのか、とにかく楽しかった。2日目はザックが軽かったこともあり疲れを感じづらく、初日より随分と登りやすさを感じた。3日目に際しても、初日と比べると楽に感じ、楽しみながら登ることができた。以上のことを考えると、初日にハードな登山ができたのは私個人としてはとても良い経験だったように思える。

反省点は2つある。1つ目は事前に怪我の対処法を確認していなかったことだ。具体的にはヒルの対処である。ヒルが出現することは合宿前から把握していたが、あまり重点的に考えておらず、結果的に班員の中でも比較的多くのヒル被害を受けてしまった。命にかかわるものではないものの、手当に時間を費やしてしまい、本来使うべき時間を有効活用できなかったのが悔やまれたので、今後はこのようなことは減らせるよう、事前に回避できそうなことには注意して対応していこうと思った。

2つ目は、登ることが第一目的となっていたことだ。初日は体力的にも周りを見る余裕はほとんどなかったが、比較的体力が残っていた2日目も登ることに集中してあまり周りを見ることができなかった。景色を堪能するためにも、班員の状況を確認できるようにするためにも、定期的に周囲の状況を把握できる程の体力をつける必要を感じた。また、自分がただ楽しむだけでなく、ワンゲル部全体が楽しめるようにする為にも日頃から周りに気を配る癖をつけていきたい。

今回の合宿でワンゲル部に入部でき、本当に良かったと感じた。このご時世でなかなか思うように活動が出来ないことが悔しいが、出来ることから精一杯励んでいこうと思う。

1年
高橋 雄馬

今まで日帰り山行は何度もしたことがあったが、泊りがけでかつ重たい荷物を背負った登山は初めてだったので、最初はなかなか不安もあった。とはいいつつ前日まで荷物のパッキングを放置し、直前に慌てて行ったために睡眠時間を削るはめになってしまった。先ほどの発言とは矛盾するが、実際どこかで大丈夫だろうと思っている節はあった。僕はついつい物事を楽観的に捉えがちだ。こんな危ない性格は早急に改善するべきだろう。当日朝、通勤時間帯に大きなザックを背負い電車に乗り込むのはなかなか勇気のいることだった。幸い僕の乗っている電車はラッシュとは逆方向で、なんとか最悪の状況は避けられたが、乗換えなどでザックを背負い直すのが大変でこの先が思いやられた。いざ始めると、最初は調子が上がらず苦しかったが、慣れ

てくると普通に歩けるようになってきた。もちろん楽になった訳ではない。登山中はあんなに辛い思いをして、さっさと帰りたいと考えているのに、なぜかまた行きたいと思ってしまうのが登山の不思議な所だ。自分でも地形図やコンパスを用いて現在地やルートなどが把握出来ればカッコイイと思っていたが、当然まだそんな技術はなく、ただ周りについていくだけだった。途中で道に迷ったときも、自分ではどうすることも出来ずどうなるのだろうと思っているだけだった。いつか見た遭難者のブログの光景とそっくりで、最悪の事態が頭をよぎったがなんとか正規ルートに復帰できて本当に安心した。たまたまし次このような状況になったとき、どのように対処すれば良いのか自分でしっかり考えておくべきだと感じた。初日で体力ががっつりと持っていけなかったので2、3日目が心配だったが、案外普通に登り終えることができた。最近はずっと運動もせず、家に引きこもっていたため、絶対途中でバテるものだと思っていたが、予想以上の自分の体力に少し感動した。今回はあまり景色などは楽しめなかったが、個人的には学ぶ事も多く良い経験となった。そんな経験を活かしこれからの山行に繋げていきたい。次の合宿も非常に楽しみたい。

2021
6月20日
黒柳



BN.885 黒柳 幹保

我が家の田圃に並ぶ「あいちのかおり」と三河安城のマンション群です。こちら側にいけばコロナ禍も大丈夫…かな？
※「あいちのかおり」とは地元で作られている稲の品種です。

BN.881 今井 浩

GW も遠くへ出かけられないので、近場でリフレッシュ。群馬県人なら誰でも知ってる上毛かるたで「滝は吹割、片品溪谷」と謳われる吹割の滝です。



2021
5月4日
今井

2020
12月25日
藤原



BN.894 藤原 雅志

今シーズンの初すべりは富良野スキー場。日が暮れてからの歓楽村が幻想的でした。

2021
5月4日
藤原

2021
5月2日
諏訪本



BN. 751 諏訪本 充弘

尾瀬御池、燧ヶ岳分岐にて。今年は雪が深い。



今シーズンのすべり納めはかぐらスキー場。まだ2mほど残る雪の上の青空が澄みきっていました。

2021
5月9日
諏訪本



若手 OB が道志に来たので山道整備。皆やる気満々！

ワンダラ の フォト日記

2021
7月1日
久保



BN. 884 久保 俊明

久しぶりに同期が来てくれたので、春のごちそう「根曲がり竹」をいただきました。長野の鯉と根曲がり竹は美味しい！

2021
3月18日
井上



BN.879 井上 稔也

奥多摩の御岳山にシーズン前の足慣らし。本宮から奥の院までの約1時間は立派な杉の参道でした。

2020年度 なため会決算及び監査報告 (自2020.4.1 至2021.3.31) 財 務 部

【支出の部】

項 目	2020年度予算	2020年度実績
MWV支援費	557,250	0
MWV活動補助費	200,000	0
駿台体育会カレンダー購入費	0	0
歓送迎会運営費	280,250	0
卒業生会費	77,000	0
現役会費補助費	140,000	0
会場使用料	52,250	0
吊看板代	11,000	0
懇親会参加補助費	77,000	0
なため会活動費	937,750	605,667
総務部	320,000	221,694
会議案内通信費	80,000	23,388
薫風運送費	160,000	157,766
慶弔費	70,000	40,540
事務用品費	2,000	0
名刺作成費	3,000	0
明大スポーツ新聞購入費	5,000	0
財務部	91,500	71,158
会費集金手数料	79,500	66,428
振り込み手数料	12,000	4,730
広報推進部	340,000	229,174
薫風制作費	290,000	212,630
薫風制作通信費	4,000	0
ホームページ維持管理費	11,000	11,000
プロバイダー更新費	30,000	0
ホームページ改定費	5,000	5,544
山小屋管理部	70,000	83,641
奥鬼怒山荘ワーク補助費	70,000	83,641
企画振興部	40,000	0
ワンデルングマネージ費	30,000	0
ワンデルング用医薬品費	0	0
予備費	10,000	0
事業運営部	76,250	0
会場使用料	52,250	0
吊看板代	11,000	0
通信運搬費	3,000	0
花束代	10,000	0
駿台体育会活動費	155,000	50,000
駿台体育会分担金	50,000	50,000
駿台体育会理事活動費	105,000	0
会費増収推進費	140,000	367,170
地域親睦会案内通信費	40,000	0
ノベルティ制作費	100,000	367,170
予備費	0	0
周年行事費	0	0
バックル制作費	0	0
予備費	100,000	0
親睦会予備費	79,874	0
支 出 合 計	1,969,874	1,022,837

【収入の部】

前年度繰越金	5,383,919	5,383,919
会費	1,650,000	1,381,000
利息収入	0	23
諸収入	50,000	17,000
薫風広告収入	50,000	15,000
親睦会剰余金	0	0
その他収入	0	2,000
収 入 合 計	7,083,919	6,781,942
収 入 差 額	5,114,045	5,759,105

【なため会基金】

項 目	2019年度末残高	2020年度末残高
藤原家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000	3,257,000
校友会館(紫紺館)建設基金	491,000	491,000
合 計	4,831,000	4,831,000

〈資産内訳1〉

次年度繰越金	5,383,919	5,759,105
OB基金	4,831,000	4,831,000
次年度会費	959,325	1,049,307
資 産 合 計	11,174,244	11,639,412

〈資産内訳2〉

通常貯金(ゆうちょ銀行)	2,425,511	2,584,923
普通預金(三菱UFJ銀行)	167,408	324,182
定期貯金(ゆうちょ銀行)	7,631,000	7,631,000
振替貯金(ゆうちょ銀行)	875,325	888,307
普通預金(みずほ銀行)	27,000	96,000
普通預金(三井住友銀行)	42,000	91,000
普通預金(りそな銀行)	6,000	24,000
資 産 合 計	11,174,244	11,639,412

(補足) 前期報告しましたOB用バックルは20年度卒業生に対して10個贈呈したため、2021年3月31日現在の在庫数は107個、金額は462,240円になります。

財務部

上原 誠 (1115) 柳川俊泰 (792) 加藤嘉寛 (1107)

2020年度事業報告

1 重点目標

- 1 会員サービスの向上
- 2 会費納入の促進
- 3 運営委員の増員

2 活動報告 ※新型コロナ対策で中止

- 1 2020・4・14(火) 運営委員会(メール会議)
- 2 2020・4 駿台体育会第1回理事会*
- 3 2020・4・20(月) 2019年度会計監査(メール会議)
- 4 2020・5・12(火) 運営委員会(メール会議)
- 5 2020・5・23(土) 幹事会(郵送・書面決議)
- 6 2020・5・23(土) 会員総会*
- 7 2020・6・5(金)~7(日)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング*
&第73回OBワンデルング*
- 8 2020・6・9(火)~6・19(金)
運営委員会(メール会議)
- 9 2020・6・17(火) 駿台体育会総会*
- 10 2020・7・14(火)~7・21(火)
運営委員会(メール会議)
- 11 2020・7・18(土) 薫風61号発送(上原誠法律事務所)
- 12 2020・7・18(土) 第74回なため会W(金峰山)*
- 13 2020・9・8(火)~9・15(火)
運営委員会(メール会議)
- 14 2020・10・1(木) 駿台体育会第2回理事会(アガミ・ミ・コン)
- 15 2020・10・9(金)~11(日)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 16 2020・10・13(火) 運営委員会(メール会議)
- 17 2020・10・31(土) 第75回なため会W(伊豆方面)*
- 18 2020・11 駿台体育会親善ゴルフ大会*
- 19 2020・11・10(火) 運営委員会(休会)
- 20 2020・12・2(火) 大学役職者と駿台体育会との懇親会*
- 21 2020・12・8(火) 運営委員会(ZOOM会議)
- 22 2020・12・12(土) 会員総会・幹事会*
- 23 2020・12・29(火)~31(木)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング*
- 24 2021・1・12(火)~1・18(月)
運営委員会(メール会議)
- 25 2021・1・23(土) 薫風62号発送(上原誠法律事務所)
- 26 2021・1・23(土)~24(日)
駿台体育会と体育会監督会との
合同研修会*
- 27 2021・2・9(火)~2・16(火)
運営委員会(リモート会議
ZOOM・メール併用)
- 28 2021・2・19(金)~21(日)
奥鬼怒山荘雪下ろしワーク
- 29 2021・2・20(土) 第76回なため会W(秩父方面)*
- 30 2021・2・27(土) 2020年度卒業生歓送迎会*
- 31 2021・3・6(土)~7(日)
針生山荘雪下ろしワーク
- 32 2021・3・9(火)~3・16(火)
運営委員会(リモート会議
ZOOM・メール併用)

2020年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

2021年4月22日 監 事 石田 正 (610) 横尾廣志 (728)

2021年度 なため会予算
(自2021.4.1 至2022.3.31) 事業運営部

【収入の部】

項 目	2021年度予算	2020年度実績
前年度繰越金	5,759,105	5,383,919
会費	1,500,000	1,381,000
利息収入	0	23
諸収入	25,000	17,000
薫風広告収入	25,000	15,000
親睦会剰余金	0	0
その他収入	0	2,000
収 入 合 計	7,284,105	6,781,942

【支出の部】

MWV支援費	537,800	0
MWV活動補助費	200,000	0
駿台体育会カレンダー購入費	0	0
歓送迎会運営費	283,800	0
卒業生会費	120,000	0
現役会費補助費	100,000	0
会場使用料	52,800	0
吊看板代	11,000	0
懇親会参加補助費	54,000	0
なため会活動費	915,910	605,667
総務部	323,000	221,694
会議案内等通信費	80,000	23,388
薫風運送費	160,000	157,766
弔意費	70,000	40,540
事務用品費	2,000	0
名刺作成費	6,000	0
明大スポーツ新聞購入費	5,000	0
財務部	88,000	71,158
会費集金手数料	78,000	66,428
経費振込手数料	10,000	4,730
広報推進部	303,000	229,174
薫風制作費	250,000	212,630
薫風制作通信費	2,000	0
ホームページ維持管理費	11,000	11,000
ホームページ更新費	30,000	0
ドメイン更新費	10,000	5,544
山小屋管理部	85,000	83,641
奥鬼怒山荘ワーク補助費	85,000	83,641
企画振興部	30,000	0
ワンデルングマネージ費	20,000	0
ワンデルング用医薬品費	0	0
予備費	10,000	0
事業運営部	86,910	0
会場使用料	52,800	0
吊看板代	11,000	0
通信運搬費	1,000	0
花束代	0	0
ZOOM年会費	22,110	0
駿台体育会活動費	155,000	50,000
駿台体育会分担金	50,000	50,000
駿台体育会理事活動費	105,000	0
会費増収推進費	190,000	367,170
地域親睦会案内通信費	40,000	0
ノベルティ制作費	150,000	367,170
予備費	0	0
周年行事費	0	0
会員名簿製作費	0	0
バックル製作費	0	0
予備費	100,000	0
親睦会予備費	0	0
支 出 合 計	1,898,710	1,022,837
収 支 差 額	5,385,395	5,759,105

2021年度事業計画

1. 重点目標

会員サービスの向上
会費納入の促進
運営委員の増員

2. 活動計画

- 4月13日(火) 運営委員会^{*1} (リモート会議)
- 4月22日(木) 2020年度会計監査^{*1} (ZOOM監査)
- 4月29日(木) 駿台体育会第1回理事会
(郵送・書面決議)
- 5月11日(火) 運営委員会^{*1} (リモート会議)
- 5月29日(土) 幹事会^{*1} (郵送・書面決議)
- 6月1日(火) 常任幹事会 (山の上ホテル)
- 6月4～6月6日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 6月8日(火) 運営委員会^{*1} (リモート会議)
- 6月9日(水) 駿台体育会総会(中止)
- 7月10日(土) 第73回なため会W(榛名山)(中止)
- 7月13日(火) 運営委員会^{*1} (リモート会議)
- 7月17日(土) 薫風63号発送(上原誠法律事務所)
- 9月14日(火) 運営委員会
- 10月12日(火) 運営委員会
- 10月16日(土) 第74回なため会W(金峰山)
- 11月1日(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会
- 11月9日(火) 運営委員会
- 12月8日(水) 大学役職者と駿台体育会
との懇親会(リバティタワー)
- 12月11日(土) 幹事会・会員総会(忘年会)^{*2}
(リバティタワー)
- 12月29～31日 奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 1月11日(火) 運営委員会
- 1月22日(土) 薫風64号発送
- 1月22～23日 駿台体育会と体育会監督会との
合同研修会(箱根)
- 2月8日(火) 運営委員会
- 2月19日(土) 第75回なため会W(秩父)
- 2月26日(土) 2021年度卒業生歓送迎会^{*3}
(リバティタワー)
- 3月8日(火) 運営委員会

※1 新型コロナウイルス感染防止のため、中止または延期、またはZOOM及びメールでの会議(リモート会議)といたします
また幹事会については書面決議といたします
その他先の予定も中止・変更となる場合がありますのでご注意ください

※2 「幹事会・会員総会(忘年会)」の開催日・会場は学内行事との関連で変更あり(9月1日時点での予約状況による)

※3 「卒業生歓送迎会」の開催日・会場は学内行事との関連で変更あり(11月1日時点での予約状況による)
また、2019・2020年度卒業生の歓送迎会を協議の上、実施予定とする。

駿台体育会常任理事就任について

BN 751 諏訪本 充弘

本年4月1日から駿台体育会の常任理事を拝命しました。体育会で競技部ではないクラブの代弁を大いにしたいと思ってます。

ここで駿台体育会とはどのようなものか私の把握している範囲で説明します。OB全員が会員でもありますので少しでも理解いただければと思います。

駿台体育会は体育会各部の支援と学校当局をつなぐ架け橋としてOBの組織を作ろうと1959年に発足しました。以来60年を超える歴史があります。

初代会長は我が部及びゴルフ部の創業者でもあります春日井篤先生です。

春日井先生が学長就任にあたって退任した後、北島ラクビー部監督が長い間会長を務め我が部の80周年の祝賀会で挨拶いただいた前会長のゴルフ部出身の関根宏二氏が6代目、新会長の畠中君代会長が7代目になります。

畠中会長はテニス部出身でただ一人軟式、硬式両方のインターハイチャンピオンのスパーレディです。卒業後大学職員として大学にかかわり、その後テニスクールの経営者として、多くの選手を育てて現在に至っています。もう一昨年にはありますがワンダーフォーゲル部にもご寄付をいただいております。もちろんしっかりお礼はもうしておきました。7代目にして初の女性会長です。

北島監督と並び有名な島岡野球部監督は駿台体育会とはいくらか距離をおいていたようです。理由はよくわかりません。

駿台体育会は体育会46部の内43部が加盟しております。各部理事二名と、OB会長、幹事長が総会出席の資格者となっております。また名簿もそのように作っております。

ラクロス、応援団、明スポの3部は未加入です。20年以上前の1億円基金を作る際、各部2百万円の拠出をしたのですがそのことが関係していると思ってます。何故かその際ラクビー部は3百万円拠出したようです。

最も応援団の監督に言わせると2百万はいつでも出せるけど我々が入るとうるさいかと嫌われてると言っていました。

1億円基金の主な使い道は優秀選手の表彰、大学周年行事の寄付などで、数年前から各部の10年ごとの周年行事に10万円お祝いにすようになっています。

我々がいつも運営委員会を使っている体育記念室も周年行事での寄付がものを言っていると思っております。

駿台体育会4代目の会長であり生き字引でもある卓球部の児玉圭司元監督によると、駿台体育会は校友会と並ぶ卒業生の二本柱であると申しております。

まもなく、大学のホームページから駿台体育会のビデオでの案内が夏にはできると聞いていますのでこちらも参照ください。

なため会に寄せて

昭和39年(商)卒業 齋藤 弘之

昨年も残り少なくなった十一月中頃、神田神保町の中華料理屋でMWV時代の同期だった鈴木康弘君、菅野隆夫君、前田芳弘君そして現監督の諏訪本さんとの会食の機会を持って旧交を温められた。その時、石井克太さんから提供いただいた当時の名簿で一挙に昔のことが鮮明に蘇った。本当に懐かしかった。

私は大学の三年になった途端に父親が「肺気腫」(今ではPOCDが一般的病名か)で入院し、医師からは当分入院が必要とのこと、父の商売をサラリーマンだった兄が引き継ぐことにはなったが、私も学業の合間を縫って手伝うことになり、ワンダーフォーゲル部の活動ができなくなり退部を余儀なくされてしまった。

新人の時の夏合宿・《岩手山》集中Wは荒木両美しのもと岩手の早池峰山経由で綱張温泉のベースキャンプに集結し、鬼が城を経て岩手山登頂。2年の夏合宿は水野正巳しの班で四国の《石鎚山》集中Wだった。関西大学WV部との兵庫県蓬萊峡での合同Wを経て、瀬戸内海の豊島・小豆島を回り、基安鉦山からベースキャンプの瓶ヶ森を目指した。何れも深く脳裏に焼き付いている苦しいながらも楽しい思い出。二年になり編集委員として鈴木君や笹治禮子さんと一緒に部報・部誌も手掛けてきた。三年の夏は北海道・大雪山の

予定だったのに参加出来なくなり誠に残念な思いをした。

こんな経歴の私ですが今回伝統のあるMWVの「なため会」にお招きいただき感謝しております。会社勤めの現役時代、生活に余裕もないのに明治大学創立120周年記念募金に始まり、その後未来サポーター募金が始まれ、自分の夢が果たせなかったMWVに少しでも役立てて頂ければと思い、数回寄付をさせて頂いたのが、諏訪本監督の目に留まりご推薦いただいたのとおもっております。

私もこの六月に傘寿を迎えました。こんな高齢者の加入は初めてだそうです。今後とも宜しくお願い致します。加入をご承認頂き有難うございました。

※齋藤弘之氏は本年5月に実施の幹事会において、なため会への入会が承認されました。バツクルナンバーは1364です。

■2021年針生山荘OBワーク報告
日程…2021年3月6日～3月7日（1泊）
参加者…12名

705 杉山、751 諏訪本、775 小田野、817 和賀井
846 植木、1064 井上、1086 大村、1115 上原、
1156 中村と晴くん、1330 奥山、1347 柿原

作業内容

現役が活動不可のため、OB11名にて1泊2日の緊急除雪を行った。管理人の星さんが小屋入口まで除雪し、小屋内も清掃して下さっていたので、即入荘可能で快適であった。

費用	
星さん・きのこやへの土産・駐車代	¥ 5,685
小屋代 (OB ¥1,000 × 11人)	¥11,000
入浴代 (¥700 × 11人)	¥ 7,700
合 計	¥24,385

せて頂きました。

会津田島で食料買い出し、屋前入荘昼食後早速作業開始。小屋南面の、屋根から滑り落ち堆積した雪の掘り出し除去を行う。星さんに借りた除雪車は入れられず、スコップとスノーダンプを使ったひたすら人力による体力勝負だが、そこは若手中心の屈強なワンダラー達、集中力で4時間には作業を終了した。南面の雨戸が雪に圧迫されややたわんでいたが、開閉に支障はない。他に損傷は見られなかった。

けがなく、全員無事に帰宅した。

大賀会長よりご寄付を頂きましたので、食費等の補助に使わ

ありがとうございました。
BN 705 杉山 裕

私にとってのOBワーク

BN 1347 柿原 匡佑

令和3年3月、針生小屋OBワークに参加した。小屋周りの雪をかいて体を動かし、その後は美味しい食事とお酒を着に先輩方と楽しい夜を過ごした。楽しい時間は早く過ぎるもので、あっという間の1泊2日だった。

今回のワークは私にとって卒業後初めて参加したOBワークであり、自分の中の変化に気づいたワークであった。変化したのはOBワークの捉え方である。現役時代、何度かO

Bワークに参加したことがあるが、当時の私にとってOBワークはわざわざ遠く離れた小屋へ行き、肉体労働や普段よりも不便な生活をおくる催しであった。そのため進んで参加するようなものではなかった。

しかし今回は当時とは異なりOBワークが魅力的なものに感じられた。その理由はおそらく自身の立場、環境が変化し、学生のころ以上に小屋での生活とは対極な日常を過ごすことになったからである。時間の貴重さは高まり、便利なものに頼ることは増えた。また普段の仕事では間接的で複雑な労働をすることが増え、直接的で単純な労働をする機会が減った。このようにより対極な生活を送るようになったからこそ、当時はあまり良く思っていなかった点は魅力的に、当時から魅力的





だった点はより魅力的にうつるようになっていた。

例えば小屋での労働は生活の基本になる衣食住に直結する仕事が多く、自分自身で労働の成果を享受できたため、普段そういう機会が乏しい私には魅力的にうつった。また都会の喧騒を離れてゆつくりできる点は当時から魅力的に感じていたが、時間の余裕が減り、気を配ることが増え、気疲れすることが増えた今だからこそ、より魅力的にうつった。

以上のように今回私が気づいたOBワークの捉え方の変化を記したが、OBワークをどのように捉えているか、どんな思いで参加しているかは人によって様々である。今回のこ

とで他の方はどんな考えなのか興味が湧いたため、今後機会があればお聞きしてみたいものである。

■2021年奥鬼怒山荘OBワーク報告

日程①…2021年2月19日～2月21日(2泊)

参加者…6名

751諏訪本、775小田野、1064井上、1265岩田

1267山脇、1312高橋

日程②…2021年2月20日～2月21日(1泊)

参加者…3名

705杉山、1115上原、1330奥山

作業内容

ここ数年積雪の少ない年が多かったが、今シーズンには平年並みの積雪であった。

屋根に約1メートル積もっていたが、3分の2程は滑り落ちていた。このため今回の雪下ろしは落ちた雪の除雪が主な作業となった。気温の寒暖で融けたり凍ったりを繰り返した雪は固く重くなっていて、時折屋根から滑り落ちてくる雪に気を使いながらの重労働であった。

手代沢温泉との道は積雪で段差が埋まり、むしろ歩きやすかった。トラバースにも危険は感じられなかった。雪解け後にどれほどのダメージを受

費用	
手白沢温泉・加仁湯温泉への土産	¥3,620
小屋代 (OB ¥2,000 × 6人)	¥12,000
小屋代 (OB ¥1,000 × 3人)	¥3,000
入浴代 (¥400 × 8人)	¥3,200
プロパンガスチャージ (¥2,000 × 3日)	¥6,000
合計	¥27,820

けているだろうか。
6月のワークも新づくり・水源修理・道整備・小屋小修理等盛りだくさんなので、多くのOBのご参加をお待ちしている。

大賀会長及び鈴木OB(2)よりご寄付を頂きましたので、食費等の補助に使わせて頂きました。ありがとうございました。

BN 705 杉山 裕

集う

BN 1312 高橋 辰之介

この度、一身上の都合により21年4月より地元宮城県で家業を継承することになり、令和3年4月の手白小屋の雪下ろしに参加する契機になった。

これまで社会人になり大阪、徳島と職場を転々とする中で、東京から離れた環境において、お世話になった部への貢献が難しく、そういった機会があれば尽力しようという心を決めていた。2019年の夏より転職にて東京に戻るが、冬口より新型コロナウイルスの影響にて部への距離は近くはなったが活動自体が控えられ、そのタイミングがいつかいつかともどかしい時間を過ごすようになった。

そんな中、2021年の年明けに家業継承の話が決まり、地元宮城県にて父のサポートをしていく方針がきまった。ここで、部への貢献を残す時間でも何かしら探ろうと決心がついた。そこでコーチ職をしている同期の由水雅也に仕事を何かしら任せてくれないかとお

願いし、今回の2月の手白小屋の雪下ろしのメンバーに同行させていただけた。

2月19日の雪下ろし当日、手白小屋に行くのも学生時代以来で5年ぶりとなる。登山経験が少なくなり体力面での不安が残るものの、この機会に全力で取り組ませてもらうおうと決意を新たにした。

手白澤付近に到着すると1月からの積雪が多く残っており、想定よりも手白澤温泉から小屋までの道中は足元を固める作業や明日以降の運搬用の道づくりに苦心し、小屋に到着するまでに小一時間はあつという間に過ぎてしまっていた。到着時に手白小屋を5年ぶりに見た際には、以前から修復されているものの小屋の存在自体が顕在していることに心の中で安心感を得た。

到着より久しぶりに炊飯をおこない皆で暖炉を囲んで鍋をつつくという懐かしい心地のする食事の時間を迎えることができた。自身にとつて5年ぶり（もしくはそれ以上）山行や食事を一緒に迎える方がほとんどであるが、忌憚なく話せる暖かい時間を雪下ろし初日より経験させていただけだ。

2月20日雪下ろし2日目、いよいよ当活動での仕事を行う日である。当日は小屋の屋根より落雪した箇所や雪がきおよび新しいガスボンベの運搬が主な作業となった。雪自体が落雪してより固まっており、午前での2時間ほどでは一掃することはかなわなかった。

昼前よりガスボンベの運搬にむかった。途

中の雪による倒木を諏訪本監督、小田野さんが処理し道の整備を進めていただけたことで運搬における負担が軽減され、初日ほどの苦勞なくガスボンベの運搬を完了することができた。昼食以降に後発隊の方々も加わり、やり残していた小屋周辺の落雪箇所の撤去を難なく完了させた。

2日目の晩も初日に引き続き、暖炉を囲んで持ち寄った食材・料理を皆で分かちあつて勞をねぎらう時間であつたが思わず感じたことがあつた。山の歌への思いである。先輩方が歌われる歌への思い入れがよく感じられ、何十年にも渡る部活への思いを感じさせられた。私が持ち合わせている部活への恩義であつたり、先輩方が歌から感じる思い入れどちらもワンダーフォーゲル部への愛に変わりはなく、長年にわたり愛されてきた部活動



組織であることを、この食事の時間を通じて考えさせられた。

2月21日雪下ろし最終日、名残り惜しい点もあるが小屋で過ごさせてもらった感謝を込めて小屋の清掃を行い、小屋を後にした。

今回、雪下ろしに参加でき、達成感がある一方で、こんなに愛された部活から距離を置くことになるのだなと寂しさを感じさせられる機会にもなった。現役を退き、今の現役生との接点も薄くなったが、こういった先輩方の部活への思いを脈々と伝えていきたいと思うようになった。

最後に、我がままに付き合ってもらい、この雪下ろしの参加までつなげてくれた同期の由水には感謝を伝えたい。

なため会 組織 (2021年4月～2022年3月)

会 員 総 会

幹 事 会

■顧問	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)	長峰 章(1000)		
■部長	高橋 信勝(1200)				
■相談役	小林 碧(197)	島林 順三(228)	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	
	足立 康弘(339)	吉田 修(345)	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	
	天野 俣明(477)	鈴木 正彦(532)			

運 営 委 員 会

■役 員	会 長	大賀 徹雄(661)			
	副会長	住田 孔一(717)			
	幹事長	柳川 俊泰(792)			
	副幹事長	日暮 浩美(915)			
	監 事	石田 正(610)	横尾 廣志(728)		
	駿台体育会理事	諏訪本充弘(751)	和賀井英雄(817)		
	参 与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)	
	監 督	諏訪本充弘(751)			
	コーチ	井上 堅一(1064)	岩田 卓也(1265)	浜口小百合(1273)	
		諏訪部貴亮(1282)	由水 雅也(1306)		
■部 会	総務部	(部長) 小田野義之(775)	(副) 原田 博文(788)	日暮 浩美(915)	
		清水 晴日(1075)	大村 研(1086)		
	財務部	(部長) 上原 誠(1115)	(副) 柳川 俊泰(792)	加藤 嘉寛(1107)	
	広報推進部	(部長) 井上 稔也(879)	(副) 住田 孔一(717)	(副) 加藤 章一(845)	
		高田 昌也(865)			
	企画振興部	(部長) 丸山 貞二(859)	(副) 山下 仁志(897)	龍 君江(838)	
		井上 堅一(1064)			
	山小屋管理部	(部長) 杉山 裕(705)	(副) 小田野義之(775)	(副) 植木 進(846)	
		山口 直樹(1017)			
	事業運営部	(部長) 山下 仁志(897)	(副) 猪狩 稔(835)	川澄 剛史(1216)	
■運営委員	前田 芳弘(501)	池田 陽一(527)	野島 一雄(676)	龍 君江(838)	
	高田 昌也(865)	清水 晴日(1075)	大村 研(1086)	加藤 嘉寛(1107)	
	川澄 剛史(1216)				

上記以外の幹事

■投稿募集のご案内

【テーマは問いません】

山やワンデルングにまつわるお話などに囚われず、趣味の世界や日常生活でのちょっとした出来事など、あらゆるジャンルのお話をお待ちしています。

※原稿用紙3枚程度にまとめていただけると助かります。

【投稿のスタイルも問いません】

写真に簡単なコメントを付けてご投稿いただくだけでも十分です。先号より「ワンダーのフォト日記」と題したスナップ写真のコーナーを設けていますので、是非お気軽にご提供ください。

【締め切りについて】

第64号（来年1月発行予定）について

期 日：12月28日（火）※必着でお願いします。

送付先：広報推進部 井上 稔也（879）

住 所：〒176-0022 東京都練馬区向山4-12-16

電 話：070-5466-11521

メール：matomaro.mano8@gmail.com

※Faxでの送付をご希望の方は電話番号が別になりますので、上記電話またはメール（ショートメールでも可）にてご一報ください。

発行日 二〇二一年七月

編集 住田孔一 猪狩 稔 加藤章一

高田昌也 井上稔也

発行者 明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社